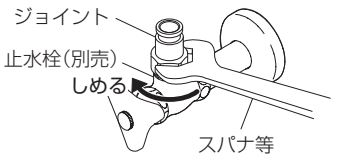


6-3 取り付け手順

3 止水栓との接続（一般地仕様、寒冷地仕様共、接続方法は同じです。）【管工事】

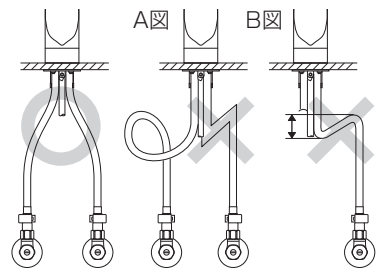
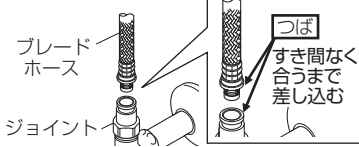
①ジョイントを止水栓に接続します。



⚠ 注意

- ❗ **接続は適切な工具（スパナ等）で締め付ける**
締め付けトルクの目安は約 2000N・cm です。締め付け不足や締め付け過ぎますと、漏水の原因となります。
- 🚫 **薄肉の接続管（ニップル等）にはジョイントを接続しない**
パッキンが切れ、漏水して家財などをぬらすおそれがあります。
- ❗ **止水栓がしっかり固定されていることを確認する**
固定されていないとブレードホースが抜け、漏水の原因となります。

②ブレードホースのつばとジョイントのつばが
すき間なく合うまで差し込んでください。



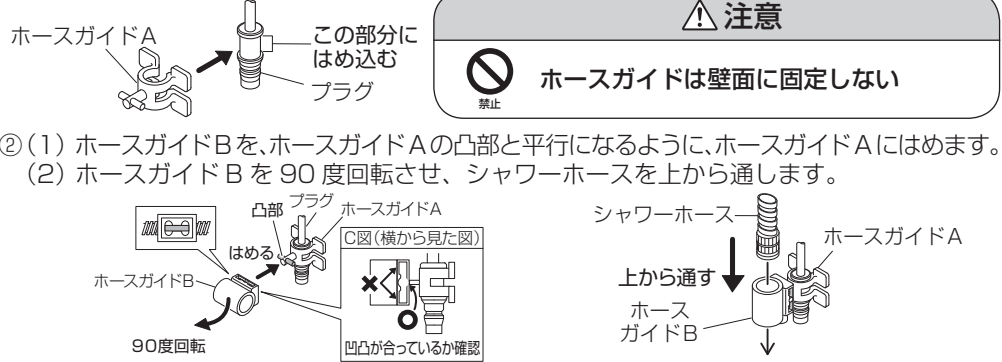
⚠ 注意

- ❗ **ブレードホースは R60 以上の大きな曲げ半径になるように曲げる**
鋭角に曲げたり、混合栓根元で曲げない(A 図)
急に曲げたり折ったりすると、亀裂や破損を起こし、漏水して家財などをぬらすおそれがあります。
- 🚫 **上下戻り配管はやめる (B 図)**
ウォーターハンマーなどでブレードホースが振動した際、屈曲部からの水漏れ発生の原因となります。
- 🚫 **ブレードホース同士などへの不要な接触は避ける**
摩擦による外傷で、ホース性能の劣化の可能性があります。
- 🚫 **ブレードホースは切断しない**

6-4 取り付け手順

4 シャワーホースの接続

①同梱のホースガイド A をプラグにはめ込みます。



⚠ 注意

- ❗ **固定した際、シャワーホースがまっすぐ垂れ下がるようにする (A 図)**
また、ブレードホースを引っ掛けたり、ひねったりしない (B 図)
シャワーホースが損傷し、漏水により家財などをぬらす財産損害発生のおそれがあります。
- ❗ **ホースガイド A と B を横から見て、凹凸が合っているか確認する**
ずれている場合は合わせてください。(C 図)
- ③カブラー（または水抜き付きカブラー）とシャワーホースを接続します。
カブラー（または水抜き付きカブラー）手締め後、工具で約 30 度増し締めしてください。
(締め付けトルクの目安は 100N・cm)

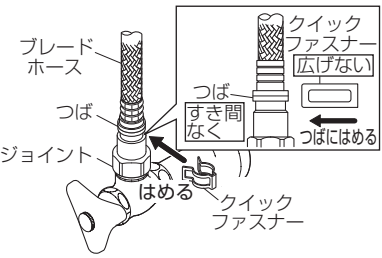
⚠ 注意

- 🚫 **カブラー等の接続の際は、**
 - カブラーの締め付け不足や締め付け過ぎない
 - シャワーホースのセレーション部以外に工具をかけない
 - シャワーホースはねじらない
- シャワーホース内がねじれて破損するおそれがあります。
漏水で家財などをぬらす財産損害発生のおそれがあります。



3 止水栓との接続（一般地仕様、寒冷地仕様共、接続方法は同じです。）【管工事】 (つづき)

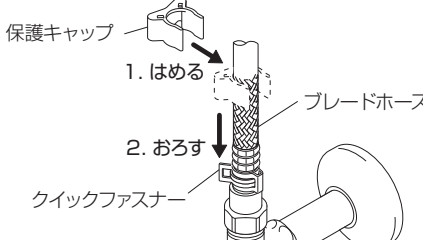
③クイックファスナーを、ブレードホースとジョイントのつばにはめます。



⚠ 注意

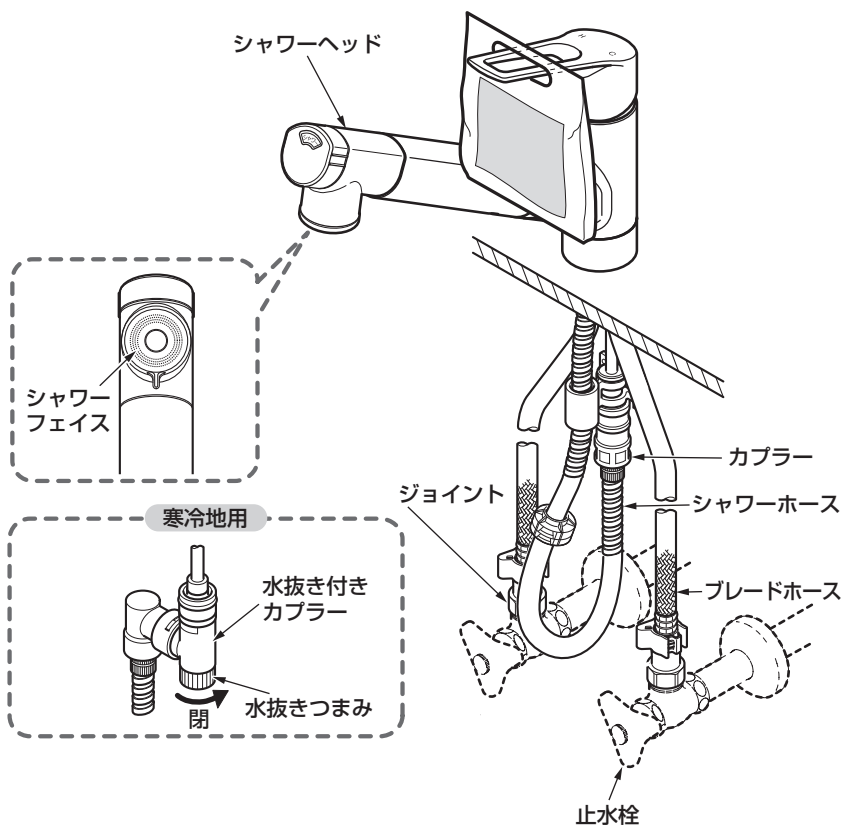
- ❗ **ブレードホースを上につっぱって、抜けないことを確認する**
しっかりとまっていないと漏水して家財などをぬらすおそれがあります。
- ❗ **ブレードホースは R60 以上の大きな曲げ半径になるように曲げる**
鋭角に曲げたり、混合栓根元で曲げない(A 図)
急に曲げたり折ったりすると、亀裂や破損を起こし、漏水して家財などをぬらすおそれがあります。
- ❗ **上下戻り配管はやめる (B 図)**
ウォーターハンマーなどでブレードホースが振動した際、屈曲部からの水漏れ発生の原因となります。
- ❗ **ブレードホース同士などへの不要な接触は避ける**
摩擦による外傷で、ホース性能の劣化の可能性があります。
- ❗ **ブレードホースは切断しない**

④クイックファスナーに保護キャップをはめます。
このとき、保護キャップはブレードホースにはめてから、クイックファスナーまでおろします。



7 点検項目

取り付けが完了したあと、次の項目を確認してください。



水漏れの確認

- ❗ **水漏れがないか確認してください。**
 - ❶ブレードホースはジョイントにしっかり差し込まれていますか？
➡ 6-3-3 「止水栓との接続」参照
 - ❷カブラーはプラグにしっかり差し込まれていますか？
➡ 6-4-4 「シャワーホースの接続」参照

寒冷地用の場合

- ❗ **水抜き付きカブラーをおさまり**
 - ❶水抜き付きカブラーは、しっかり閉まっていますか？
➡ 水抜き付きカブラーを閉める。
 - ❷シャワーホースは、水抜き付きカブラーにしっかり接続していますか？
➡ 6-4-4 「シャワーホースの接続」参照

流量および吐水温度の確認

- ❗ **流量が多い場合、および温度調節がうまくできない場合は、レバーハンドルを左側（湯）いっぱいに戻したときと、右側（水）いっぱいに戻したときに、どちらも原水にて 15 秒で 2L のやかんを満たす程度の流量（約 8L / 分）になるよう止水栓を調節してください。**
 - ❶シャワーフェイス・ストレーナのごみ詰まりはないですか？
➡ 8 「取り付け後の点検と清掃」参照
 - ❷止水栓は開いていますか？
➡ 止水栓で流量を調節する。

動作確認

- ❗ **シャワーグリップの動作はスムーズに行えるか確認してください。**
 - ❶ブレードホースがシャワーホースを押さえ込んでいませんか？
➡ 6-4-4 「シャワーホースの接続」参照
 - ❷シャワーホースにゆとりはありますか？
➡ 6-4-4 「シャワーホースの接続」参照

ガタツキの確認

- ❗ **ガタツキがないか確認してください。**
 - ❶水栓本体の座付きナットのゆるみはないですか？
➡ 6-2-2 「本体の固定」参照

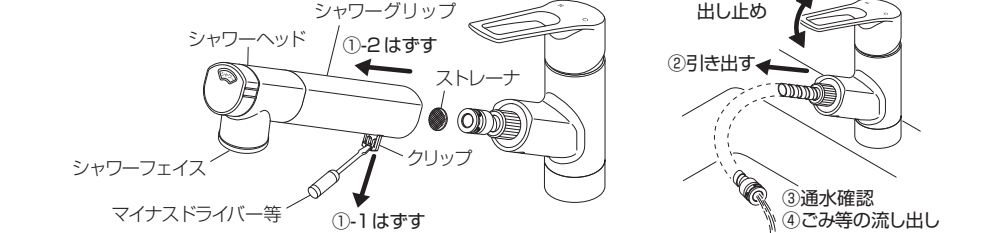
8 取り付け後の点検と清掃

通水確認・ごみ等の流し出し

⚠ 注意

- ❗ **水栓を取り付け後、通水して湯水の出し止めを 5 ～ 6 回繰り返し、配管接続部および水栓から水漏れがないことを確認する**
確認しないと、漏水で家財等をぬらす財産損害発生のおそれがあります。
- ❗ **通水確認は、浄水カートリッジを取り付けない状態で行う**
浄水カートリッジを取り付けた状態で通水確認をして、使用しないまま放置した場合、浄水カートリッジの性能が落ち、使用できなくなることがあります。

- ①マイナスドライバー等でグリップをはずしてから、シャワーヘッドをはずします。
- ②シャワーホースを引き出し、シンクに置きます。
- ③湯水の出し止めを 5 ～ 6 回繰り返し、配管接続部および水栓から水漏れがないことを確認してください。
- ④シャワーホースを持ち、下に向けた状態にして、湯水全開で数分間吐水させ、配管・水栓内のごみ等を流し出します。



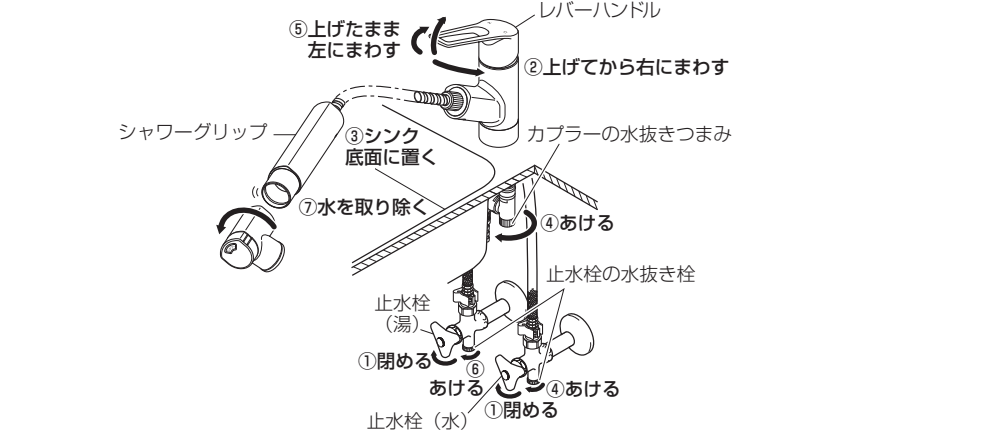
清掃後は、はずした逆の手順で組み立ててください。

シャワーフェイス・ストレーナ清掃のお願い

シャワーヘッドのシャワーフェイス・ストレーナにごみ等が詰まりますと、吐水量が減ったり、きれいに流れなくなったりしますので、施工後必ず清掃してください。

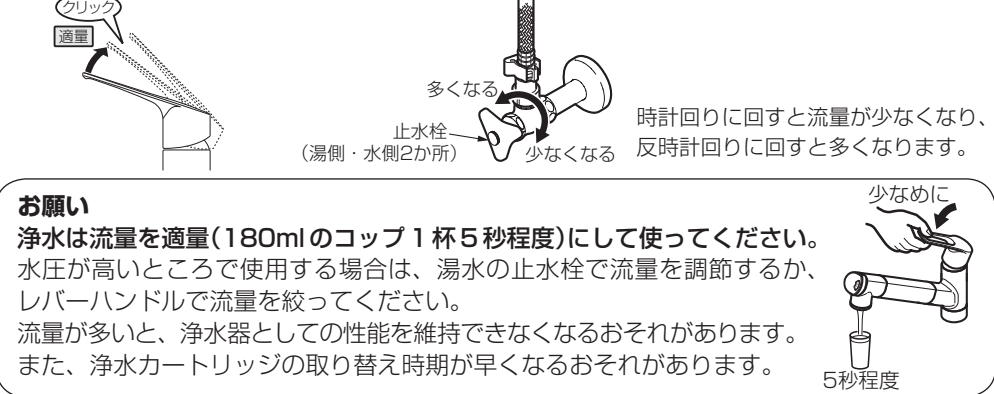
寒冷地仕様の水抜き方法

- ①湯と水、それぞれの止水栓を閉める。
- ②レバーハンドルを上げ、右（水）側いっぱいに戻す。
- ③シャワーグリップを引き出して、シンクの底面に置く。
- ④水を受ける雑巾などを用意して、カブラーの水抜きつまみと、水側の止水栓の水抜き栓を開けて水を抜く。
- ⑤レバーハンドルを上げたまま、左（湯）側いっぱいに戻す。
- ⑥湯側の止水栓の水抜き栓を開けて、水を抜く。④同様、水を受ける雑巾などを用意しておく。
- ⑦シャワーグリップを振って、中の水を取り除く。



止水栓による流量の調節方法

レバーハンドルのクリック手前で適量（5L / min 程度）になるよう、止水栓で調節します。水圧が低く、クリック手前で適量に達しない場合には、止水栓を全開にしてください。



＜止水栓調整の目安＞

レバーハンドルを左側(湯)、または右側(水)いっぱいに戻したとき、どちらも原水またはシャワーモードで約 15 秒で 2L のやかんを満たす程度の流量になるよう、止水栓を調節してください。

9 使用上の注意

ご使用中に以下のような現象が発生することがありますが、**故障ではありません。**お客様に十分に説明ください。

現 象	説 明
使い始めに比べて、しばらく使用する	ご使用により商品内部の部品がなじみ、安定した
ことによるもので、故障ではありません。	

※同梱の取扱説明書などは、必ずお客様にお渡しください。